

令和元年6月18日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K06646

研究課題名(和文) 中心市街地におけるイベントスペースの都市的評価手法の開発

研究課題名(英文) Urban-scale evaluation of event space in city center

研究代表者

有馬 隆文 (ARIMA, Takafumi)

佐賀大学・芸術地域デザイン学部・教授

研究者番号：00232067

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：近年、中心市街地の活性化手法としてイベントが注目されているが、イベントの開催スペースに関する評価手法は確立されていない。そこで筆者はイベント空間を都市的視点で評価する定性的方法を提案し、その有効性を検証した。

まず都市的評価の項目として、アクセス(近接性)、周辺環境(波及性)、隣接環境(視認性)の3項目を重要項目として設定し、地理情報システムを活用して、それらの項目を評価する方法を開発した。その方法を分析モデル都市に適用し、それぞれの都市内のイベントスペースの評価を、数値データとビジュアルな地図情報として表現した。最後に、専門家を対象としたアンケートを実施して本手法の有効性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中心市街地の役割がモノ消費からジカン消費の場へ変化しつつある中で、中心市街地の中でイベントスペースは重要な空間となりつつある。そのような中、日本各地の中心市街地でイベントスペースを新たに設える動きが多くみられる(例えば博多駅前広場、福岡市役所前広場、長崎中華街前広場など)。しかしイベントスペースを中心市街地のどのような場所や条件下に設置すれば、中心市街地の活性化に効果をもたらすのであろうか? その都市的評価方法は確立されていない。本研究では、イベントスペースを都市的視点で評価する方法を確立しており、今後の中心市街地の再生に向けた計画論に寄与するところは大きい。

研究成果の概要(英文)：In recent year, urban event is focused as the way of city center revitalization. However, The evaluation method of event space from viewpoint of urban-scale is not established. Therefore, our research team developed the method of urban-scale evaluation of event space.

At first, we focused the indices for evaluation. As the result, we found out the important items. these were "Access", "Surrounding area" and "Adjacent environment". Based on these items, the evaluation system was developed by using GIS software. we could present the result of evaluation as the numerical data and visualized data on the map. finally, We grasped the validity of our system from the result of questionnaire and interview toward the event specialist.

研究分野：都市計画、都市デザイン

キーワード：中心市街地 イベント・スペース 地理情報システム マッピング

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、中心市街地の集客を目的として、イベントが盛んにおこなわれている。また、それに合わせて、屋外イベントスペースは、中心市街地における重要な空間として位置づけられるようになってきた。

(2) 上記のような現況があるが、屋外イベントスペースに関する都市的視点による知見は乏しいこと、都市の賑わいに寄与するイベント空間の都市的視点による計画・デザイン要件を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

(1) 中心市街地におけるイベント空間を都市的観点から評価する指標群を開発し、その指標群を5都市(予算が満額認められなかったため調査対象を縮小)に適用して、各イベント空間の特徴を数量的または視覚的に表現する。さらに結果を相対的に比較することで、特徴や課題の考察を行う。

(2) イベント主催者へのアンケート調査から、イベント空間に必要される様々な要件(立地・環境・空間・設備)を明らかにする。

(3) 上記(1)(2)で得られた結果を総合化し、中心市街地の賑わいに寄与するイベント空間の都市的要件をまとめると共に、イベント空間を都市的視点から評価する方法論を確立する。

3. 研究の方法

(1) 既往文献調査、現地予備調査を実施して都市的視点でみたイベント空間評価の評価項目とその評価指標の候補を網羅的に洗い出す。次に評価指標を可視化指標と数値指標の2つに分類し、その表現および算出の方法を検討する。さらに3都市において現地調査を行い、指標を算出すると同時に専門家へアンケートを実施し、それぞれの指標の重要性を明らかにする。得られた指標の重要度をもとに、重要度を重みとして最終評価を行う。

(2) 前年度に確定した指標をもとにさらに2都市において調査を行う。その調査結果を取りまとめて比較分析を行い、それぞれの都市の特徴、課題、求められる戦略を分析する。さらに、イベントの専門家にアンケート調査を実施し、イベントの立地・環境・空間・設備およびイベントの効果を明らかにする。

(3) 最後にそれぞれの分析を取りまとめて、都市の賑わいに寄与するイベント空間の都市的視点による計画・デザイン要件を明らかにする。

4. 研究成果

(1) イベントスペースの都市的視点による計画・デザイン要件を分析する前に、福岡市、長崎市、大分市の中心市街地で開催されているイベントの基本的情報を収集して整理した。屋外のイベント会場として一般的であるのが、広場・公園であり、福岡では寺社や大型商業施設の屋外が多かった。長崎では市街地全体を活用するような観光都市特有のイベント空間が見られた。イベントの活動内容にもそれぞれ都市の個性が見られ、大都市の福岡では「体験・飲食」が多く、長崎では観光都市らしく「鑑賞・観覧」が多かった。

屋外会場タイプ別件数

	公園・広場	寺社	文化	商業	観光・レジャー	商店街	市街地	合計
福岡	16 26.7%	15 25.0%	2 3.3%	12 21.7%	6 10.0%	2 3.3%	6 10.0%	100%
長崎	10 35.7%	1 3.6%	0 0.0%	1 3.6%	5 17.9%	2 7.1%	9 32.1%	100%
大分	14 63.6%	0 0.0%	1 4.5%	1 4.5%	0 0.0%	3 13.6%	3 13.6%	100%

活動別件数

	買物	観賞・観覧	体験	飲食	合計
福岡	11 18.3%	9 15.0%	20 33.3%	20 33.3%	60 100%
長崎	1 3.6%	19 67.9%	3 10.7%	5 17.9%	28 100%
大分	6 27.3%	5 22.7%	7 31.8%	4 18.2%	22 100%

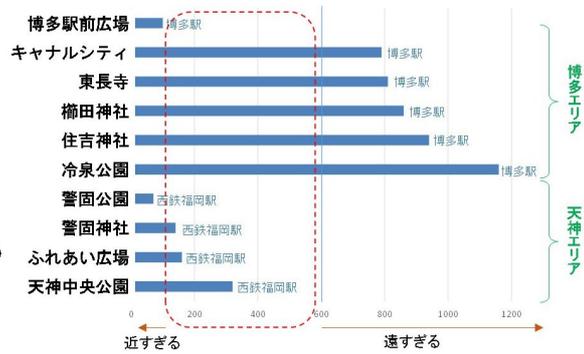
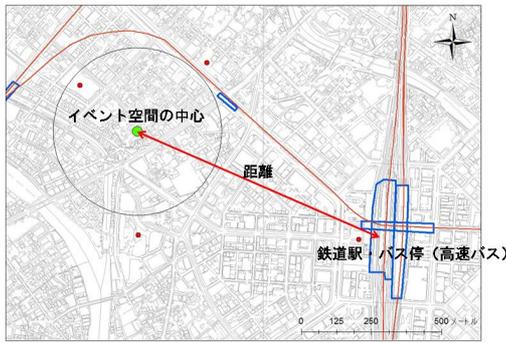
(2) イベントスペースを都市的視点で評価する指標群を考案し、数値データと地図上のビジュアルデータで表現した。

下図は評価項目「アクセス」の中の「主要交通施設からの距離」の指標を数値(グラフ)と地図上に示したものの例である。右下のグラフは各イベント空間の距離を相対的に比較した結果である。福岡市の天神地区のイベント空間は、博多区と比較して、距離が近くコンパクトな

エリアに集中していることがわかる。

●アクセス

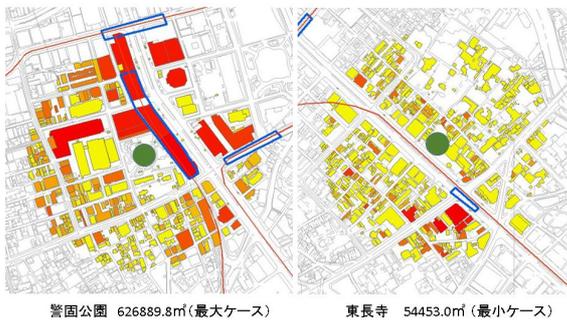
鉄道駅や高速バスのバス停からイベント空間への距離



下図は評価項目「周辺環境」の中の「イベント空間周辺の商業施設の集積状況」の指標を数値(グラフ)と地図上に示したものの例である。右下のグラフは商業施設の集積状況を相対的に比較した結果である。福岡市の天神地区におけるイベント空間周辺の商業集積は、博多区と比較して、極めて大きいことがわかる。

●周辺環境(商業施設の集積状況)

屋外イベント空間周辺の商業施設の集積状況



●周辺環境(商業施設の集積状況)

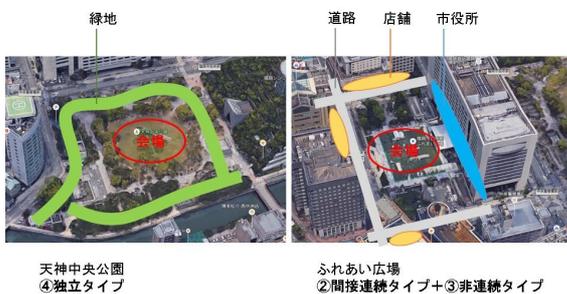
屋外イベント空間周辺の商業施設の集積状況



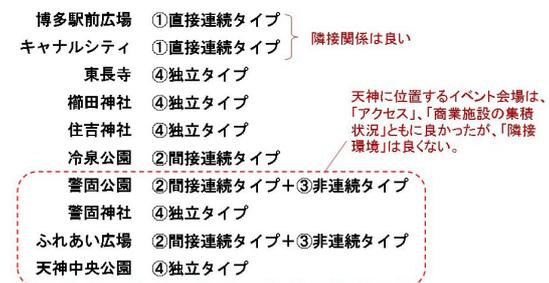
下図は評価項目「隣接環境」の中の「イベント空間に面する施設の連続性」の状況をタイプ分類して地図上に示したものの例である。右下はタイプ分類を相対的に比較した結果である。福岡市の天神地区は、隣接環境がよいものと全く良くないものに2極化している。一方、天神地区におけるイベント空間周辺の隣接環境は間接的に周辺と繋がるものが多く、評価はあまり良くない。

●隣接環境

屋外イベント空間に面する施設の連続性



屋外イベント空間に面する施設の連続性



(3) イベントに関して専門的知識を有する者にヒアリング、さらにはアンケートを実施して、イベント開催に関する情報を入手するとともに、筆者らが考案した指標群の有効性の検証をおこなった。結果として3大項目のなかではアクセス性が最も重視される傾向であり、隣接環境の重要度が最も低かった。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計6件)

石陽、有馬隆文、中心市街地の賑わいに寄与する屋外イベント空間の都市的評価法の開発と応用(その2)日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無し、F-1分冊、pp.403-404、2018

有馬隆文、石陽、中心市街地の賑わいに寄与する屋外イベント空間の都市的評価法の開発と応用(その1)日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無し、F-1分冊、pp.401-402、2018

石陽、有馬隆文、屋外イベント空間における都市の賑わいに寄与するための評価指標、2017年度第57回日本建築学会九州支部研究発表会、査読無し、57号、pp.353-356、2018

石陽、有馬隆文、中心市街地におけるイベント空間に関する都市的評価、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無し、F-1分冊、pp.411-412、2017

有馬隆文、日本の中心市街地における屋外イベント空間の都市的評価、アジア景観デザイン学会秋季大会、査読無し、2016

石陽、有馬隆文、中心市街地におけるイベントの特徴及び周辺市街地との関係、日本建築学会大会学術講演梗概集、査読無し、F-1分冊、pp.115-116、2016

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等  
なし

## 6 . 研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。